

2020・07・28

バイオプラスチック導入ロードマップ検討会

The Shiseido logo, featuring a stylized red 'S' followed by the word 'HISEIDO' in a bold, red, sans-serif font.

資生堂 グローバルイノベーションセンター
木村 友彦

資生堂 サステナブル社会への貢献

資生堂の社名は、中国の古典『易経』の『至哉坤元 万物资生』に由来します
大地の徳はなんとすばらしいものであろうか、すべてのはここから生まれるという意味です
大地、地球環境、社会を敬う心を示しています。
資生堂は、すべての事業における全バリューチェーンにおいて
サステナブルな社会への貢献を目指しています。



いたれるかなこんげん ばんぶつとりてしょうず
至哉坤元 万物资生

大地の徳はなんと素晴らしいものであろうか。
すべてのは、ここから生まれる。

資生堂におけるプラスチック使用容器

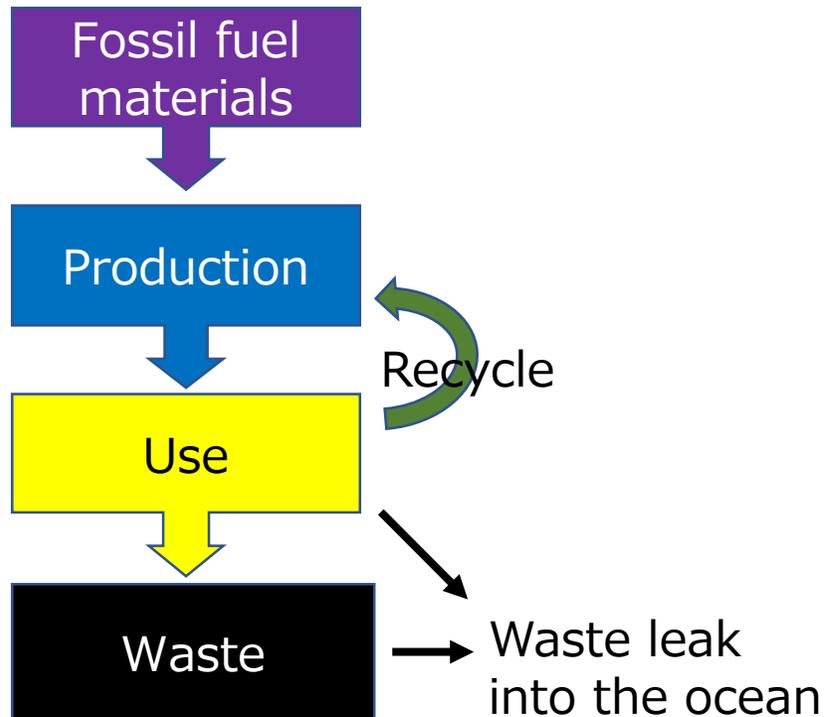
多くの化粧品容器でプラスチック類が活用されている

美類 代表例	スキンケア 化粧水・乳液・クリーム 洗顔料	メーキャップ ファンデーション・口紅 アイライナー	ヘアケア シャンプー・ コンディショナー・ スタイリング	フレグランス
形状	ボトル ジャー チューブ	パレット リップ容器	ディスペンサー エアゾール	ガラスディスペンサー
写真				
素材	ガラス PET PE PP その他	ガラス PET PE PP その他	ガラス PET PE PP エアゾール缶	ガラス ディスペンサー

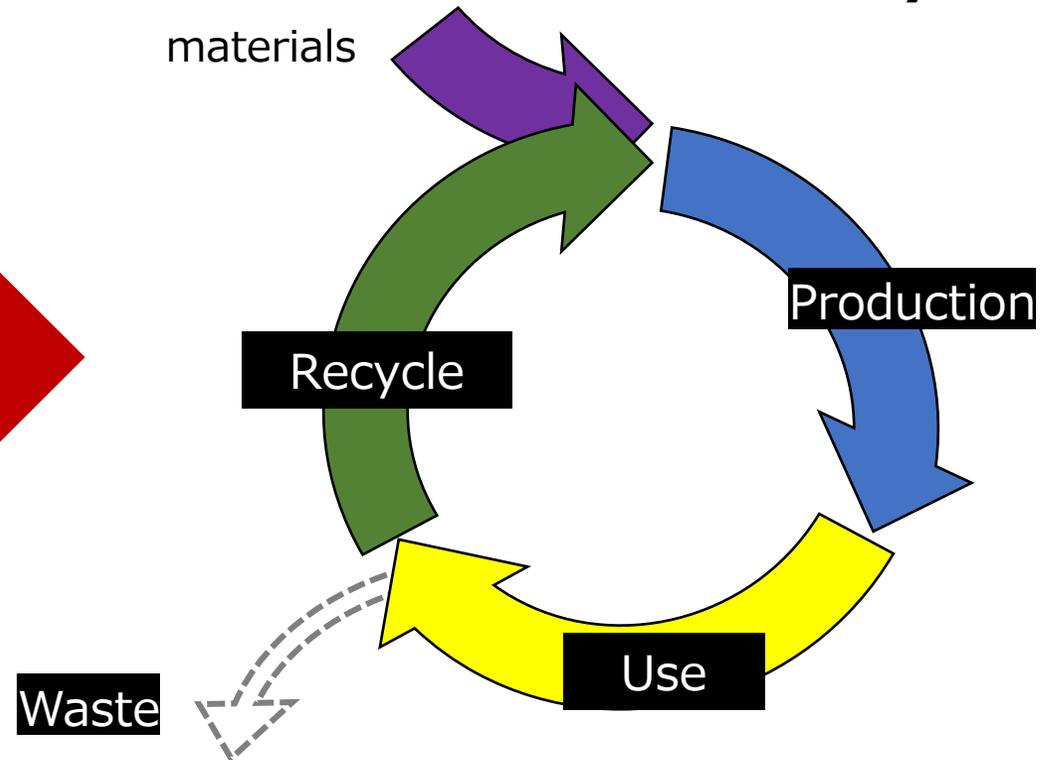
サステナブルなパッケージ開発にむけての考え方

生産、使用、廃棄、リサイクルなどのあらゆるシーンで環境負荷を低減し、お客さまに商品を気持ちよく使っていただくサーキュラー・エコノミーへの展開を図る

Linear economy

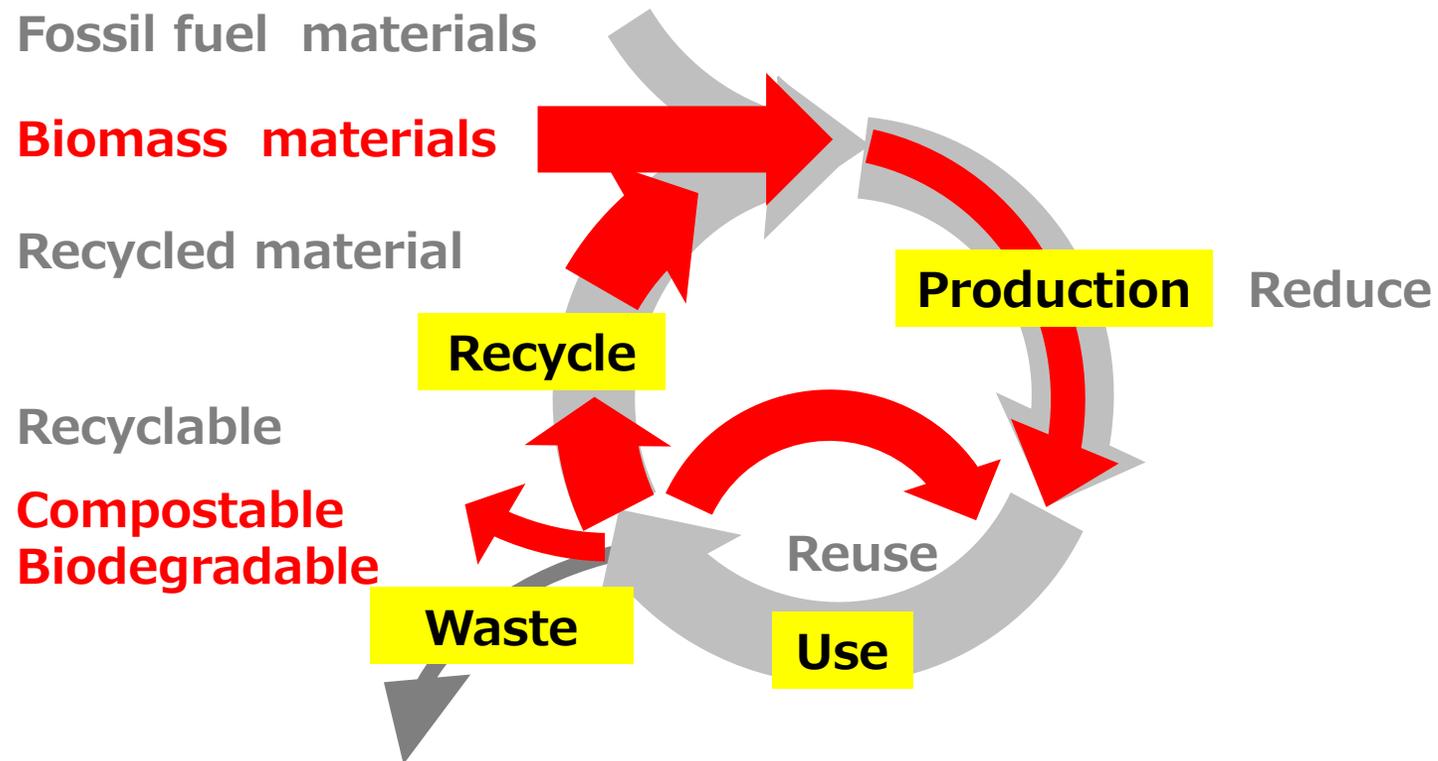


Circular economy



サーキュラー・エコノミーの考えをベースにした取り組み概念

プラスチック量を減らし、リユースを進め、リサイクルしやすくし、リサイクル素材を使っていく
容器材料については、化石燃料からリサイクル素材、植物由来素材に転換を進める
この植物由来素材の活用では、リサイクルがしやすく次のループに回るものを積極活用していく
コンポスト化、環境・海洋汚染対策として生分解性の設計などを進めている



資生堂 バイオプラスチックの活用

1926年の詰め替え商品の発売以来、様々な環境配慮パッケージの開発をしています
サステナブルパッケージの開発を積極的に進めています
バイオプラスチックについても精力的な活用を進めています

1926 資生堂コンパクト（懐中用）でレフィラブル化

1965 資生堂サンオイルにて焼却時の燃焼カロリーが少ない易燃焼性樹脂を用いて廃棄性

1996 地球環境に配慮したスキンケアブランドに生分解性キャップを採用

2001 ガラスびんリサイクルシステムの導入

2004 ファンデーションのテスター用の**バイオマス・生分解素材**を採用

2006 **植物性ポリ乳酸**をメーキャップ容器に採用

2009 **エコ・ファーストの宣言**／ポリ乳酸を**中国ブランドURAシャンプー、ボディケア 3 品**に採用

2011 **スーパーマイルドシャンプー・コンディショナー**に国内初のサトウキビ由来ポリエチレン

スキンケアブランドアネッサ、シャンプーブランドTSUBAKIなどに活用拡大

2019 **バイオPET**をBeauty Barボトルに採用／カネカ生分解性素材**PHBH**の共同開発をリリース

2020 **バイオPET**ボトルと木枠を新ブランドBAUMに採用

今後 植物由来・生分解性素材を活用した製品を上市

植物由来 ポリ乳酸の活用

- ・大手化粧品メーカーとしてはじめて、植物由来のポリ乳酸を2009年中国専用ブランドURARA活用
- ・その後国内販売の製品にも活用を広げた



日本パッケージングコンテスト受賞

活用事例 サトウキビPEのヘアケア製品への活用の事例

- ・2011年業界で初めてサトウキビPEをスーパーマイルブランドで活用
- ・バイオマス素材の活用によりCO₂の増加を抑制
- ・原料のバイオエタノールは、主にサトウキビの搾汁から砂糖を精製した残液部（糖蜜）を発酵して作られるため、食料（砂糖）との競合しにくい観点でも有用



活用事例 サトウキビPEの活用拡大

- ・サトウキビ由来ポリエチレン容器の採用拡大
- ・シャンプー・コンディショナーブランドのTUBAKI、サンケアブランドのアネッサ、スキンケアブランドのエリクシル、メンズブランドのUNOなど活用を拡大させた



※製品発売時期によって活用素材は異なります

活用事例 バイオPETの活用拡大

・2019年植物由来素材からなるバイオPETを「マイコスメ」※で活用

※研究員が直接お客さまの肌を解析してつくる「パーソナライズ スキンケアサービス」商品



活用事例 その他サステナブルに向けての取り組み

- ・20年発売の「BAUM」は“樹木のカ”に着目。「自然との共生」という思想に根差し、サステナブルな社会の実現を目指す
- ・ バイオPETの活用、家具生産工程で発生した小さい木材や、リサイクルガラスも活用、木枠はなんども使えるリユース設計



今後の取り組み 生分解性素材の活用

- ・カネカ様と共同で植物由来・生分解性PHBHを活用した容器を開発中
- ・その他の生分解素材も各種検討中

SHISEIDO

2019-4
株式会社資生堂

Press Release

資生堂、カネカと生分解性化粧品容器の共同開発を開始

資生堂は、株式会社カネカ(以下、カネカ)と海水中で高い生分解性を持つ独自素材「カネカ生分解性ポリマーPHBH※」の化粧品容器などへの活用を目指し、共同開発を開始することに合意しました。今後、化粧品の容器、用具、包装資材、什器など様々な用途への可能性を両社で協議・検証を重ね、早期の実用化を目指します。

※「カネカ生分解性ポリマーPHBH」

カネカが独自に開発した100%植物由来のバイオポリマーであり、幅広い環境下で優れた生分解性が期待される素材です。

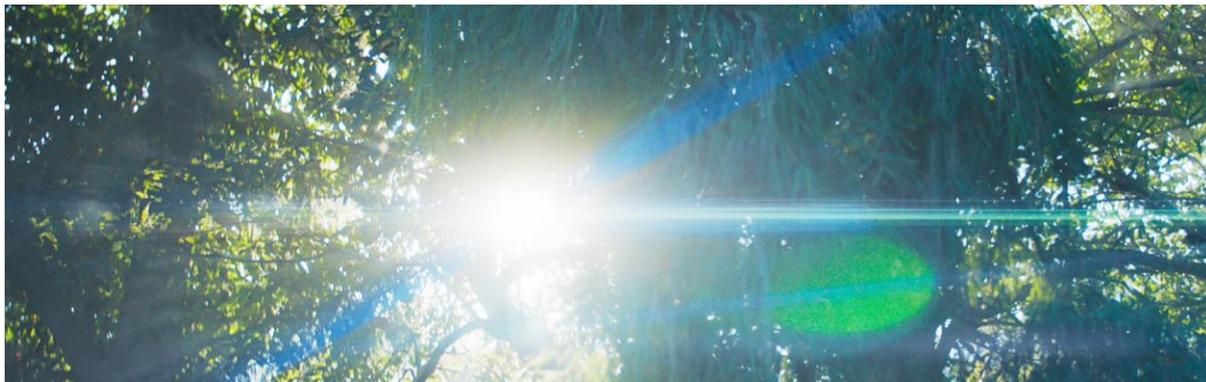
今後の展望

**バイオマス素材は
CO₂負荷低減に寄与できる**

**使用後のリサイクル可能な素材を
上手く活用し環境負荷低減を図りたい**

**生分解性プラスチックは
コンポスト対応や
万一自然界に流出に対応できる。
誤廃棄の助長などに配慮しながら
適材適所（たとえば屋外使用製品・コンポ
スタブル化可能地域）の活用を図りたい**

**お客さまのパッケージに対する環境配慮の意識が高っている
優れた素材を積極的に活用し、社会をリードしていきたいと考える**



SHISEIDO